

人生は “Connecting Dots”



星野 清隆 （ほしの きよたか）さん

1982年 明治大学文学部（英米文学専攻）卒
英語部 71代 ディベートセクションチーフ
大和証券退職後、現在、世田谷区公立小学校に勤務

写真は、1年半前に家族旅行で訪れたニューヨーク・ウォール街にある、 株価上昇のシンボル “BULL（雄牛）銅像” の前で。

略歴

- ・ 1982年4月：大和証券入社。以来、大和証券グループ資産運用会社のシンガポール現地法人及びニューヨーク現地法人の社長を含め、約19年間の海外勤務を経験
- ・ 2016年：大和証券グループ企業の常務取締役就任
- ・ 2019年：同社を定年退職し、現在は世田谷区の公立小学校に勤務中。

はじめに

米国アップル社創業者である故スティーブ・ジョブズ氏が、2005年6月にスタンフォード大学の卒業式に招かれた際に行った有名なスピーチがあります。

同氏は、この中で、人は人生において様々な”点”（出会い・経験）を重ねるがその時にはそれぞれの”点”がバラバラで何の関連性も無いように思えるものの、将来、それぞれが何らかの形で必ず繋がっていく ” Connecting Dots ” を信じるのが大切だと語っています。

私も幾つかの ” 点 ” を紹介しながら半生を綴ってみたいと思います。

ディベート

ディベートとの出会いは、私のその後の人生に大きな影響を与えました。私は、会社人生の約9割を海外顧客向けマーケティング（営業）に携わってきました。欧米のマーケティング関連書籍を読むと、顧客に商品やサービスの提案するプレゼンでは、まず “We believe that ~ “で始め、続いてそう信ずるに足る十分な理由や顧客が得られる ” 利益 ” を論理的に展開する方法が手本として書かれています。

まさに、ディベートの基本と言えます。グローバル化が加速度的に進むビジネスの世界において、ディベートは共通言語であり、成功を収める鍵の1つであると思います。

就職活動

教師一家に生まれた私は、在学中、漠然と教師になる姿を思い描いていました。4年生時に地元栃木県の高校教員免許（英語）を取得したものの、海外ビジネスに関わりたいという願望を捨てることができず、悩む日々を送っていました。

そんなある日、大和証券に入社していた1学年上の佐田先輩が声を掛けてくださり、何度かの面接を経て、海外ビジネスに積極的な大和証券に入社することとなりました。紹介して下さった佐田先輩には感謝の言葉しかありません。

大和証券勤務時代

約19年間の海外勤務の中で、私の人生に大きな影響を与えた出来事は次の4つです。

(1) 1987年：ブラックマンデー（ニューヨーク株式市場の史上最大の株価下落に端を発した世界的株価大暴落）

(2) 1990年：湾岸戦争（イラクのクウェート侵攻と米国主導多国籍軍の参戦）

(3) 2001年：アメリカ同時多発テロ（イスラム過激派によるWorld Trade Center等への旅客機によるテロとそれに続く対テロ戦争の勃発）

(4) 2002~3年：S. A. R. S. 重症急性呼吸器症候群（中国を起源とするS. A. R. S. ウイルス感染症のアジア地域大流行）

ここでは、特に(3)のアメリカ同時多発テロについて触れたいと思います。あれは2001年9月11日(火)、抜けるような青空の朝でした。

いつものようにManhattanの事務所に出社しCNNをつけると、突然、World Trade Centerから黒煙が上がっている画面に切り替わりました。

同時多発テロ発生の瞬間でした。最終的に、私の友人を含む約3,000人の方が犠牲になった史上最悪のテロ事件となりました。

幸い私の勤務先は、テロ現場から数Kmほど北に位置していたため直接的な被害はありませんでしたが、入居ビルに爆弾を仕掛けたとの脅迫電話が何度もあり、社員全員が屋外に退避するなど混乱した状況が数ヶ月続き、アメリカ国民の心に消えることのない深い傷跡を残した事件でした。

このような中で、昼夜を問わず犠牲者の捜索やテロ現場の回復に努めている消防士、警察官等に対する支援の輪が広がり、私の会社でも社員一丸となって支援を行いました。

アメリカ人一人一人が持つボランティア精神を見て心打たれたと同時に、日本人では中々理解しがたい宗教問題の根深さを改めて痛感しました。

これら4つの出来事は、世界のグローバル化がもたらす矛盾と弊害の典型的な例であり、現在も同様の矛盾と弊害が繰り返されているのを見ると、グローバル化とは何なのか、を改めて考えざるを得ません。

定年退職と小学校勤務

2019年3月大和証券グループを定年退職。

これからの人生を考えるにあたり、これまでの延長線ではない、何か新しい事に挑戦したいとの思いが強くなりました。

そんなある日、東京都教育委員会が小・中学校の特別支援教室の運営職員を募集している記事を見て、あッ、これだ、と思わず叫んでしまいました。

特別支援教室とは、東京都が義務教育において特に力を注いでいる分野で、知的レベルは問題がないものの、情緒面で障害(例:最近マスコミ等で頻繁に取り上げられている” A.D.H.D. ”や自閉的傾向等)を持つ児童への教育を行う教室のことです。採用条件は、①教員免許状(種類は不問)取得者。②特別支援教育の経験と情熱、の2点。採用試験は論文と面接でした。

私は、かつてこうした特性を持つ子供達へのボランティア支援の経験があったことから、児童教育の大切さを痛感していましたので、早速応募し無事採用となった次第です。

退職前には予想だにできなかった第二の人生の始まりですが、毎日、子供達より元気をもらい充実した日々を送っています。

むすび ～明治大学英語部 現役生の皆さんへ

現役の皆さんは、現在コロナ禍で対面授業もままならず、出口の見えない中でストレスが溜まる日々を過していることと思います。

私は、人生には意味の無い出会いや経験は皆無だと信じています。

これから様々な経験や出会いを多く積んで、自分の“引出し”にしまっておくと、いつかそれらが繋がり、新たな道（チャンス）が見つかるのではないかと思います。その日を楽しみに、日々を送って欲しいと思います。

最後に、冒頭で紹介したジョブズ氏が、スピーチの最後に話した言葉をもって締め括りたいと思います。

“ Stay Hungry, Stay Foolish ! ”